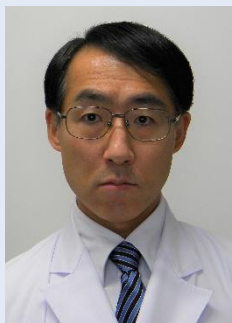


子ども虐待の証拠化を目指して



美作 宗太郎

Sohtarō Mimasaka

教授 博士（医学）

退職済

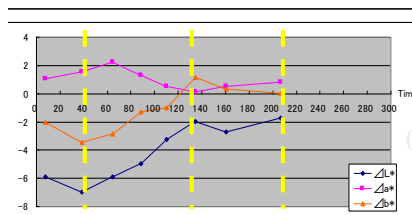
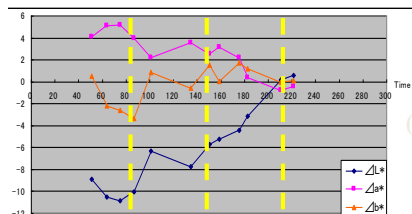
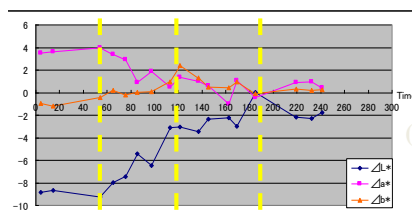
大学院医学系研究科 医学専攻 社会環境医学系 法医学講座

研究キーワード

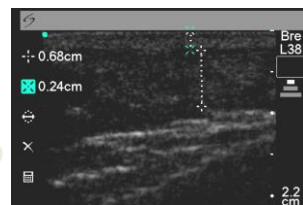
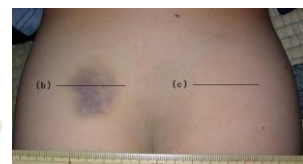
子ども虐待，打撲傷，臨床法医学

研究概要

法医学というと、事件や事故に遭って亡くなった方ばかりを扱うイメージがありますが、実は生体を扱うこともあり、臨床法医学と呼ばれています。近年、児童相談所における子ども虐待の相談件数は年々増加して社会問題となっています。虐待を受けた子ども達を一時保護するには虐待を受けた証拠が必要になります。当講座では、身体的虐待の中で最も頻度が高い打撲傷を証拠化する研究を行っており、今までに分光測色計による打撲傷の色調の数値化、超音波診断装置による皮下出血の評価、特殊波長光線を利用した陳旧打撲傷の可視化などの研究を行って来ました。現在は、サーモグラフィカメラを用いて新しい打撲傷を可視化する研究を行っています。通常の写真撮影だけでは証拠化できないケースに対応する方法を研究して、1人でも多くの被虐待児を救いたいと考えています。



分光測色計による打撲傷の測色パターン（Lab表色系）



超音波診断装置による皮下出血の可視化



特殊波長光線による撮影システム

予想される応用例

打撲傷の評価のみならず、炎症反応の評価に応用できる可能性があります。

産業界へのアピールポイント

法医学では、様々な手法を用いて分かりやすく証拠化する技術が求められています。